

きんもくせい

平成30年 学校教育だより

December **12** 第339号

(年4回発行)

編集・きんもくせい編集委員会

発行・埼玉県富士見市教育委員会

電話・049-251-2711 (内線623)

編集目標 人間尊重の教育を求めて



熱闘 ドッジボール大会

写真提供／勝瀬小学校

雪のけっしよう

鶴瀬小学校 五年

加藤 つきな

冬の道

歩いていたら

空からつめたい星がふつてきた

キラキラ

キラキラと静かにふつてきた

わたしの大好きな

雪のけっしよう

観察してみたいな

どうして一つ一つ

形がちがうのだろう

不思議

自然の力はすごい

わかる授業 = 小学校 道徳 =

仲間と共に成長する「道徳」

指導者 関沢小学校 教諭 金子 裕美

前段

資料をもとに考える

道徳の授業では、文章・写真・映像などの資料を使います。生活環境や経験がそれぞれ異なる子どもたちが、同じ土俵に乗って考え、話し合うための手助けとして資料が必要だからです。

本年度から道徳が教科化されたことに伴い、これまで各家庭で費用を負担していた読み物資料集が、教科書という

「好きな教科は何ですか。」
 「こう聞かれて、皆さんはどの教科を思い浮かべますか。子ども達と同じ質問をすると、人気があるのは体育・音楽・理科・算数……。道徳の名前は、なかなか挙がりません。確かに週一時間、年間で三十五時間という、時数の少ない教科ですが、実は道徳にもたくさん魅力が詰まっています。

一つ目は、日常生活の中で深く考える機会が少ないテーマについて、考えるきっかけになることです。「自由と勝手の違いは何？」「親切とはどのようなもの？」「なぜ命は大切なもの？」などのテーマに対し、「なぜ？」、「どうして？」と考える中で、気付きや学びがあり、学習を通して自分自身の心の成長を感じることが出来ます。

二つ目は、特別な技能を必要としないため、誰もが対等な関係で学習に参加できることです。道徳の学習では、一人一人の考え方の違いを大切にしています。勉強や運動が苦手でも、自分の体験や考えを話すことで、授業の中心となって活躍することが出来ます。

道徳では、考えを伝え合うことで学習が深まります。そこで、授業を前段と後段に分けて構成し、子ども達の考えを引き出すようにしています。

仲間と共に成長する「道徳」

特別支援教育

共に生きる

東中学校 教諭 大林 幸江

東中学校には特別支援学校がない。本校には諏訪小学校と南畑小学校から生徒が進学してくるが、障がいがある方との交流経験がほとんどない生徒も存在する。すぐ近くに特別支援学校があるのだが、生徒達はそこどのような生徒が通っていて、どんな学校なのかを全く知らない。このような現状をふまえ、この立地を生かして支援学校の生徒

と中学生の交流の場を設けられないかと提案がなされ、昨年度から準備が行われた。東中学校の三年生は総合で福祉について学ぶ、「共生」というテーマで考え、「行動していくのだが、それに関連付けて交流を行うことで内容に深まりが得るのではないかと考え、今年度は三年生で実施することにした。生活の中でどのように障がいがある人と

自分の経験をもとに考える

授業の後段では、自分の経験

かび上がってきます。更に話し合いを続けると、席を譲る行動により、自分の「そわそわ」した気持ちがつつきりする、ということに気がきます。

このように、資料をもとに話し合うことで、座席を譲るかどうかも迷った経験のない子どもでも、同じテーマについて考えることができるのです。

後段

かかわっているのかを事前に道徳で考えさせ、素地を作った。交流の場も支援学校に何わせて頂くこととした。

交流日当日、支援学校の生徒たちは温かく歓迎してくれ、一緒にレクを行い、楽しい時間を共有することができた。体験後の生徒の感想には「一人十色だと思った」「一人一人の個性がすごく豊かだ。楽しかった」と、こちらが気付かせたい観点が思いが記入されており、多くを学べた貴重な機会となった。今後も違いを認め合える心豊かな生徒の育成に力を尽くしていく。



富士見台中学校 2年 鹿久保 想

毎年恒例の合唱コンクールは、学校全体がとても盛り上がりがあります。1学期の終わりの頃から練習を始めますが、クラスが一つになることは、簡単なことではありません。生徒同士で意見を出していくうちに、揉め事が起こるのは日常茶飯事です。しかし、生徒同士で

心に響く合唱を

しっかりと話し合い問題を乗り越えることで、より良い合唱になると思います。本番ではキラリ☆ふじみのホールにすばらしい合唱が響きわたりました。どのクラスも思いの伝わる合唱がとても感動しました。賞は決まってしまいましたが、全員が全力を出し切ることができた、すばらしい合唱コンクールだったと思います



形が無償配布となりました。また、埼玉県は道徳教育に力を入れている。埼玉県教育委員会が作成した読み物資料集「彩の国の道徳」も授業で使用しています。更に、富士見市教育委員会でも小学校低・中・高学年と中学校向けに四本の独自資料を作成し、該当学年の授業に取り入れていきます。これらの資料をもとに、各時間のテーマについて考えていきます。

例えば、電車の座席に座っている自分の目の前に、

自分はそのわらわらしながら目をつぶって寝たふりをする……。という話の資料があったとします。授業のテーマは「正しいことは勇気をもつて」です。この時、道徳では「座席を譲りましょう」と一律を考えを押しつける授業は行いません。「そわそわしながら目をつぶった」行為の中に隠れた思いを考えたことを重視します。「座席を譲りたいけれど、声を掛けられない」「断られたら、周囲の人の目が恥ずかしい」と、差別や偏見がな

自分の生き方につながる道徳

これから先、子どもたちが人生を歩む中で、様々な場面に遭遇することで、そのとき、たくさんの選択肢の中から自分の行動、そして生き方を決めるのは、自分自身の心です。

子どもとかがわる立場の者として、子どもたちには悔いのない幸せな人生を歩んでほしい。そう願いながら道徳の授業を行っています。

指導・講評

関沢小学校 校長 庄司 政之

今年度より「特別の教科道徳」が実施されています。本校では、夏季休業中の研修や金子教諭による自主的な授業公開を通して「考え、議論する授業」への転換を図ってきました。その結果、ペアやグループ学習の中で、率直に自分の思いを語る事ができたり、友だちとの関わりの中で気づいた自分の考えをもとに、さらに議論し高め合う姿が見られました。そこで、また、そのことについて、「好きな教科は何ですか？」と聞かれて、「道徳です。」と答える児童が増えています。



「読書は経験になる。」

東中学校 保護者 福島 祐美

年齢が上がるにしがたがって、読書をするのが減っている。昨今、中学生の読書率の増加の向上などが課題となつています。

人生の長さは限られていますが、その中で、より多くの経験を、様々なことを知り、それを活かしていくためには読書は最適な方法だと考えています。自分と違う経験、まだ知り得ない感情、新しい知識を読書によつて得ることが出来るからです。

ただ、読書によつてこれら自分のものにしていくためには、能動的に楽しみ、イマジネーションを発揮する力をはぐくむ必要があります。ただ読むだけでは、自分の中で消化されず、糧にすることもできないからです。想像する力は、考える力になり、創造につながります。



広く深い視野を持つことで、人生はもつと豊かになります。



よりよい人間関係を築く

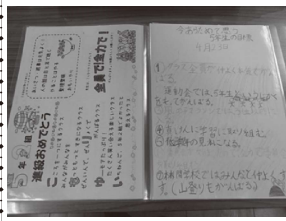
勝瀬小学校

勝瀬小学校では、よりよい人間関係を築くために、ピア・サポート活動とポートフォリオ活動に取り組んでいます。

ピア・サポート活動では、各クラスからピア・サポーターリーダーを募り、困っている人などに声をかけて力になっていけるよう取り組んでいます。また、いじめをテーマにした劇を全校児童の前で演技し、いじめ

についてみんなに考えてもらう機会を作っています。

ポートフォリオ活動では、「宝物ファイル」と名付けた個人ファイルに、自分がかかったことや思い出などを書いて入れます。また、友達からもらった励ましや感謝の言葉カードなどを入れていきます。よかったです。よかったことなどを後で思い返すことができ、友達や家族への感謝の気持ちも高めることが



できます。今後もこれらの活動を生かして豊かな心をはぐくみ、「仲良く、本気で最後までがんばる子」を育成してまいります。

つるせ台小合唱部の音返し

つるせ台小学校 保護者 海谷 えりこ

今年、六年生の二男が三年生の時から伴奏を手伝える保護者として、もう一人の梅津さんとともに合唱部の活動に参加させて頂いています。毎年、夏のコンクールの準備を始める時期が近づくと、楽譜と熱いメッセージが顧問の先生から届けられ、その度にまた今年も子どもたちとの練習が始まるんだなあと、すこしドキドキしながらも楽しみにしていました。

練習は、基本、授業の間の短い休み時間を利用して行われ、他の学校行事も忙しい中、頑張り屋の子はほぼ毎日、そうでなかった子も本番近くのリズム練習が始まると熱心に参加するようになり、最初とは見違えるほど上達します。でも、曲の心も伝わる歌を歌うということはとても難しいこと。美しい響きだけでなく、言葉が聞こえるようにどう練習するか、コンクールで求め

られる課題は難しく、皆でギリギリまで取り組み続けます。

つるせ台小合唱部には卒業した先輩たちもよく応援にきてくれます。先生の熱い指導を慕うことはもちろん、校長先生をはじめ他の先生方、ご家族の方や地域の方にもたくさん助けをいただいた。同時に巻き込む！そんな場になつていくように思います。

だからこそ、巻き込んでしまった皆さまに、すてきな恩返しを音返しがしたい



「できる喜び」を目指した体育の授業

つるせ台小学校

つるせ台小学校では、今年度、富士見市教育委員会の委嘱を受け「できる喜びを味わう運動」に取り組む児童の育成をテーマに研究に取り組んでいます。授業の中で①運動の基礎感覚や基礎技能を高めるために身に付ける技を絞って段階的に指導すること②マネジメントを工夫して運動の時間を確保することを意識して、全校で研究に取り組んでいます。



ね、と子どもたちに伝える顧問の先生。私たちもこれからも応援させてもらいます。

十月二十六日には、西部地区から九十六名の参加者を集め、二年生、四年生、五年生が授業公開を行いました。

新しいことに挑戦してやり遂げたときの喜びは、何にも代えがたい体験です。その時に向けて大人が支え、励まし達成したときには共に喜び、そんな中で本当の信頼関係を築くことができると考えています。今後も体育だけでなく他の

教育課題特集 生きる力を

教科や生活の中でもできる喜びを児童に一つでも多く味わわせ、共に喜びながら児童を育成していきたいと思えます。



先人たちの資料にふれて

水子貝塚資料館 隈本 健介

市内の水子貝塚資料館・難波田城資料館では、学校教育と連携して活動しています。資料館や併設の公園への見学、学校での出前授業、夏休み期間中にまとめた研究科に関する優れた研究作品を展示する「社会科展」の開催などを行っています。

水子貝塚資料館では、子どもたちの見学や体験学習の際に、普段は触れることができない市内の遺跡から出土した土器や石器を、実際に観察できるようにしています。遺跡から出土した資料は、先人たちが残したものです。先人たちが発明し、時代とともに知恵や工夫で材料や形を変えながら、現在使われている道具につながっています。粘土で造られた縄文土器が、現代の金属製のナベにつながっているように、現在の私たちが便利で当たり前に使っている道具も、先人が発明したこと、改良版なんだよと解説

しています。



人間尊重・私の主張

人権問題について

お父さんの仕事



鶴瀬小学校 四年 伊藤 ゆずな

わたしのお父さんの仕事は、しょうがいのある人のお世話や、お手伝いをする仕事です。はじめてお父さんと仕事場に行つたとき、車いすにすわっている人や、ほかの職員の人といっしょに歩いている人がいました。また、目が見えない人や、うまくしゃべれない人もいました。その時、お父さんは、しゃべれない人にもやさしく声をかけていました。「大じょうぶですか？へやにもどりますか？」わたしはそれを見て、動くのも大へんなんだなと思えました。

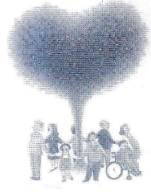
お休みの日、お父さんに仕事のおまつりにつれていってもらいました。前の方で、車いすにのっていた女の人が、「ゆずなちゃん」と、小さな、やさしい声でよんでいました。わたしは、少しがおおくなって、女の人のところへいききました。そうしたら、わたしの手をとって、あめとチョコをくれました。女の

人はニコニコして、車いすのタイヤをまわしていききました。

お父さんがかえってきて、言いました。「どうしたの？」わたしは、「あめとチョコをもらった。」と言いました。そうしたら、「そうだぞ。歩けなかつたり、しゃべれなかつたりしても、心がやさしいから、こわがらないうであげて。」わたしは、ニコニコして「うん。」と言いました。

お父さんはいつも仕事をして、「元気が出る。」と言っています。それは、自分の前でいっしょけんめいしゃべろうとしたり、車いすを動かしたりしているすがたを見て、言っているのだと思います。しょうがいがある人でもやさしいし、みんなと同じようにしゃべれたり、歩いたりすることはできないけれど、みんなのことを、とつとも思ってくれているから、大切にしたいです。

もしそういう人をさべつしたりする人がいたら、しょうがいがある人もとつともかなしいと思います。わたしはぜつたいにしないとかいいました。



富士見市 いじめのない学校づくり宣言

《小学校宣言》

私たちは、全校児童が仲良く楽しく過ごせる学校をつくるために、相手の気持ちを考えた行動を心がけ、いじめのない学校を目指し、以下のことを宣言します。

- 私たちは、いじめをしている人に「遊び半分で相手を傷つけるようなことをしてはいけません。」と注意します。
 - 私たちは、いじめられている人に「いつでも相談してね。一人でかかえこまないで。」と声をかけてあげます。
 - 私たちは、いじめを見ている人に「見ているのもいじめだよ。いっしょに助けてあげよう。」と言います。
 - 私たちは、お父さん、お母さん、先生たちに「子どもの変化に気づいて助けてください。」とお願いします。
- 私たちは、友だちのいいところを認め合い、いじめがなくなるまで、「いじめはだめだ。」とうたえ続けます。

《中学校宣言》

私たちは、一人ひとりの個性を認め合える、いじめのない太陽のような学校をつくるために、以下のことを宣言します。

- 私たちは、いじめをしている人に「相手の気持ちになって、自分の言動を見つめよう。」と声をかけていきます。
 - 私たちは、いじめられている人に「一人じゃないから勇気を出して相談してね。」と声をかけていきます。
 - 私たちは、いじめを見ている人に「私たちの一言で救われる人がいるからみんなて助け合おうよ。」と声をかけていきます。
 - 私たちは、お父さん、お母さん、先生たちに「一人ひとりちゃんと理解して、よくなかったら注意をしてください。」とお願いします。
- 私たちは、仲間を大切に、いじめを撲滅する努力をします。

人間尊重教育推進

わたしたちのまに 育てよう 人間尊重の心 広げよう

一 富士見市は人間尊重宣言都市です

私たちのまち富士見市は、昭和四十一年に人間尊重都市宣言をしました。

「からだの健康を高めよう」

「自分を大切にするとともに、他人を尊重しよう」

「個性をよりよく生かし社会のために役立てよう」

と呼びかけながら私たちのまにを人間尊重のまににするのを宣言したのです。

二 学校における人間尊重

市内の小・中・特別支援学校では、一人ひとりの子どもたちに確かな学力を身につけさせるとともに、人間らしくよりよく生きる心をはぐくむための教育が実践されています。

また、すべての教職員により一人ひとりの子どもたちが大切にされ、互いに尊重し合い、信頼関係で結ばれた学校づくりが進められています。

三 家庭教育における人間尊重

子どもにとって家庭は、安らぎの場所であり、人間としての生き方を学ぶかけがえのない場です。また、親子のコミュニケーションは、食事が体をつくるのと同じように、子どもの豊かな心をはぐくむこととなりませう。家庭での温かい言葉かけは、子どもの心を育てる栄養となります。

毎日の家庭生活の中で、やさしさや思いやりなどの豊かな心が育つことを願って「家庭における人間尊重教育十か条」が作成されており、活用されています。

家庭・学校・行政が力を合わせ、一体となって子どもたちの健全な育成に努力していきましょう。

家庭における人間尊重教育十か条

- 一人のいのちを大切にしよう
- 健康を大切にしよう。正しい食事と適度な運動でからだづくりをしよう
- おはよう、おやすみ、ただいま、おかえりのことが聞こえる温かい家庭をつくりましょう
- ありがとう、ごろうさまの素直な言葉には感謝の心を育てましょう
- 家族の仕事を分担しよう
- 人の喜びを喜び、人の心の痛みを分かちあひ助けあていましょう
- やさしさ、いたわりの心を大切にしよう
- どんな物も人の汗と力のできることを知り、物を大切にする心を育てましょう
- 正しくやさしいことばでつづかれた明るい家庭をつくりましょう
- 正しいことをつらぬく強い心で勇気ある行動をとらしましょう

人間尊重 わたしたちの合言葉

- 救いの手 出してみよう 自分から
(鶴瀬小学校 五年 對嶋 陸斗)
- すてきだよ あなたの個性は 宝物
(諏訪小学校 五年 有永 夏美)
- 人間尊重 わたしたちの合言葉
人間尊重 使っていいのよ 考えて
(東中学校 一年 高木 菜々美)
- その言葉 使っていいのよ 考えて
(勝瀬小学校 五年 大瀧 宇多)
- 仲良くし みんながみんなを 好きになる
(勝瀬小学校 五年 大瀧 宇多)
- のぼしてね あなたのすてきな 良いところ
(みずほ台小学校 五年 小嶋 亜友実)
- 【富士見市人権教育推進協議会 応募作品より】

